上州武尊・川場谷

2009 年 7 月 11(土)～12 日(日)

メンバー：Ｌ白土、神戸（記)、他１名

7 月 11(土)　曇り

　去年のちょうど同じく海の日の連休前で、山友会に入る前に来ようとしていた沢。泊まりの沢には釜ノ沢にしか行った事がない頃で、癒し系の初心者向けの沢だと聞いて楽しみにしていた。ところが、ウナギの寝床、獅子の牢と順調に通過した辺りで、水流のすぐ脇に日帰り位の大きさのザックが落ちていた。なんだろうと皆で言いながら、しばらく歩いていると、５人位のパーティが沢を下ってきた。どうしたのか尋ねると、この先で人の遺体を見つけてしまい、警察に届けるために下山するのだという。しかも結構、日にちが経っているようで、釜の中の倒木に上半身がひっかかり頭もない状態だと聞いて、誰もがこれ以上進む気にならなくなってしまった。そこから沢を引き返し、翌日は転進しようにも資料もなかったので、奥多摩の丹波川本流に行ってきた。後日、しばらくの間、遺体発見のニュースがあるかと気にしていたが、結局、公にはならなかったようだ。桐の木平のキャンプ場の小屋の人は、置きっぱなしの車もないし、沢に単独で入った人も見ていないので、登山道から滑落したか、沢に迷い込んだ人なのではと言っていた。

　というような経緯もあり、予報は雨だし出発するまでは、あまり気が進まなかった。金曜夜に手前の道の駅で仮眠し、川場キャンプ場の登山口に自転車をデポして、桐の木平のキャンプ場に車をおいて入渓した。キャンプをしている人が１組いるだけで、沢でも人には会わなかった。ウナギの寝床は水流の両脇を歩いて通過できる。獅子の牢は浅い水位で深くても腰までしか浸からず、出口の滝は倒木を使って登れた。両岸の狭まった小さなゴルジュは洞窟のような感じで今まで、あまり見たことのない渓相だった。川場剣ヶ峰沢の二俣の上の小さな釜の滝でスライダーみたいに滑ってみたりした。4ｍスダレ状の滝は左から巻いて、8mの滝は水流の左の岩場をロープを使って登る。この辺りの滝からは温泉の成分のような物が流れ出していて、岩が白くなって硫黄の匂いがする。4mの滝を補助ロープでいくつか登り、2mと 5mの滝は左を高巻いて、剣ヶ峰沢と家の串沢の出合に出た。その先は狭い河原状になり、一段高い笹藪を刈り払ってツェルトを張った。虫がたくさんいてネットを被ったけど、刺された後で、帰ってきて顔や首が結構腫れて大変だった。

コースタイム：桐の木平キャンプ場 6:50 →８：１０獅子ノ牢→11:25 川場剣ヶ峰沢→13:25 剣ヶ峰沢→14:05 家ノ串下ノ沢→14:30 笹藪の高台（泊）

7/12 日(日)曇りのち晴れ

小滝がしばらく続き、2 時間程で藪漕ぎとなる。本流をつめて行ったけれど、途中で左にトラバースして行き枝沢にぶつかったので、手前の枯れ沢を左に入った方がいいのかもしれない。藪がいったんとぎれた所で休憩したが、ここも虫が多くてずっとネットを被っていた。この辺りに雪が少し残っていた。もうしばらく藪を漕ぐと、武尊山山頂まで 30 分位の登山道に出る事ができた。山頂には人が数人いて、日帰りで武尊沢に行ってきたという人達もいた。眺めは良くて遠くの山まで見渡す事ができた。途中、草刈り機を持っている人がいて、川場キャンプ場まできれいに笹が刈られていた。登山口の駐車場には無人の小屋があって布団も置いてあった。帰りはいこいの湯に入って、ラーメン屋さんで食事をして帰った。トマトラーメンとカレーラーメンが美味しい店だった。今回、初めての泊まりの沢だった友達の鈴木さんも、とても楽しんだようでした。

コースタイム：ＢＰ6:45→7:10 家ノ串上ノ沢→9:00 登山道→10:05 上州武尊山頂→11:50 前武尊→13:30 川場キャンプ場駐車場

地形図：鎌田、追貝